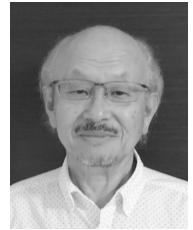


英語で発信する手助けとなる 「和英小辞典」の活用



佐藤 哉二

高校生になると、英文を読むだけではなく、英語で発信する機会も多くなり、授業だけでなく、パソコンでメールをやり取りすることなどを楽しみを見出す生徒もいるだろう。ずっとむかしの世代が、海外のペンパルとの手紙のやり取りを楽しんだように。

その英語を使う活動に必携の味方が和英辞典であることは間違いない。学校生活、クラブ活動、日本の事象や風物を英語では何といえよいか、そのヒントになる英単語や慣用表現、簡単な用例が載っているからである。『ベーシックジーニアス英和辞典 第2版』（BG2）にもごくごく小規模ながら「和英小辞典」を付録とした理由である。

項目数およそ2万4千だから十分とはいえないだろうが、とっきの検索にはなんとか役に立つように日本語見出しを厳選した。その実際の作業から、いくつか基本的なことがらや具体例を挙げながら述べてみたい。

まず、「こうも言える」という、同義語をいくつも並べることはできるだけ回避した。BG2利用者は、1つの日本語に対して、こうも言える、ああも言える、この単語もある、と並べられても、どれを選ばよいか迷ってしまうだろう。ただし、いたずらに削除するのではなく、生徒が迷うような語句に関しては、適切な選択制限を加えた。

むかつく [吐き気がする] feel sick, [腹が立つ] get disgusted

あるいは、見出し語が多義語の場合は必要に応じて対応する語を選んだ。

引く [引っ張る] pull; [数値を] take ...

off; subtract; [注意を] attract; [辞書を] consult; [線・くじを] draw

さらに、多義語では選択制限を [] で示した。

走る run; [列車・バスが] run

情けない [事が] shameful; [人が] ashamed

安い [品物が] cheap, inexpensive; [値段が] low

どろぼう [人] robber; [行為] robbery

外食産業の進出がはなはだしく、つい最近も、近所に回転ずしが開店したが、この「回転ずし」は必要だろう。が、「外食産業」までは要らないだろう。収録語を決定する際に、BG2を利用する生徒に必要なかどうかを判断する基準が難しい。「宅急便で送る」や「代金着払い」はどうしようかなどと採択するかどうかの悩みは尽きない。

巻末の「和英小辞典」という形態では十分な紙幅がとれないのも残念だった。例えば、「歯」には「歯を食いしばる」と「歯を磨く」の2つしか載せられなかった。「歯」に関連する語として英和本文で tooth を見ると、「虫歯がある」、「歯を抜く」、「歯が抜けた」もある。授業で和英辞典の使い方に触れる機会があれば、和英辞典から英和辞典へ戻り、英和辞典を和英辞典として活用する、そういう使い方も生徒に紹介していただき、英語で考え、考えたことを英語で発信する、和英・英和辞典の一步進んだ生かし方にも触れていただきたい。

(さとう さいじ・『ベーシックジーニアス英和辞典』編集委員、元高校教師)